



友の会だより No.39

(2019年10月25日発行)

自転車文化センター

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1

TEL 03-4334-7953 / FAX 03-4334-7958

Email bccask@jifu.jp

OPEN 9:30~17:00 (最終入館 16:45)

CLOSE 月曜日(祝日の場合は翌平日)・年末年始

令和元年度第3回テーマ展示

『自転車旅の魅力展』開催中♪

- 開催期間：令和元年9月19日(木)～12月15日(日)(予定)
- 開催場所：自転車文化センターギャラリー・ライブラリー
- 開催時間：9:30～17:00(最終入館16:45)
- 休館日：月曜日(但し、月曜日が祝日の場合は、翌平日)
- 入館料：無料
- 展示内容：「自転車旅」をテーマに、四季折々の季節の移ろいを風で感じてみませんか!?
景勝地などを巡り、伝統行事を観に行く、いろいろな旅に行く手段を自転車に変えて「自転車旅」ならではの魅力・新たな発見を楽しめる情報が盛りだくさん!!
ご来館お待ちしております♪



『2020 ハンドメイドバイシクル展』

～開催のお知らせ～

🚲開催日：令和2年1月25日(土)・26日(日)

🚲開催時間：午前9時30分～午後4時50分

🚲開催場所：科学技術館1階 1～5催物場(予定)

寄贈資料の紹介

- | | |
|----------------------|---------------|
| ・M.ウィリアム・スティール様（東京都） | 書籍 2冊 |
| ・日向一泰様（千葉県） | マーク 1点 |
| ・高橋忠男様（愛知県） | マーク・シール他 100点 |

自転車文化センターでは、寄贈された貴重な資料を大切に保管し、テーマ展示等を通じてご覧いただける機会を設けております。

新着図書のご案内

- 「エスケープ・トレイン」(熊谷達也 著/光文社)
「自転車日和 50/初心者&マイペースに楽しみたいすべての人」(辰巳出版)
「最新ロードバイクインプレッション&購入ガイド」(コスミック出版)
「クロスバイク&ミニベロ最新購入ガイド」(コスミック出版)
「折りたたみ自転車&スモールバイクカタログ」(辰巳出版)
「MTB 日和 Vol.37/マウンテンバイカー倍増計画」(辰巳出版)
「MOUNTAINBIKE ACTION 34-5」
「競輪選手/博打の駒として生きる」(武田豊樹 著/KADOKAWA)
「自転車日和 51/初心者&マイペースに楽しみたいすべての人」(辰巳出版)
「ヒルクライム完全攻略/エイムック BICYCLE CLUB 別冊」(ハシケン 著/柘出版社)
「ニッポンのじてんしゃ旅 Vol.05/ヤエスメディアムック CYCLE SPO」(八重洲出版)
「ニッポンのじてんしゃ旅 Vol.06/ヤエスメディアムック CYCLE SPO」(八重洲出版)
「弱虫ペダル 61」(渡辺航 著/秋田書店)
「バイシクルクロス 2019年4月号増刊」(柘出版社)
「三原永晃 負けない競輪/ド本命から穴までを7点で狙う」(三原永晃 著/三恵書房)
「MOUNTAINBIKE ACTION 34-6」
「クロモリロードバイクベストセレクション」(柘出版社)
「サイクルパーツオールカタログ 2019-2020」(八重洲出版)
「MTB 日和 Vol.38/2020のシーンが丸わかり」(辰巳出版)
「自転車キャンプがよくわかる本/いつもの自転車で非日常の旅へ」(八重洲出版)
「ロードバイクメンテナンスブック/キャリパーブレーキ編」(スタジオタッククリエイティブ)
「MOUNTAINBIKE ACTION 34-7」
「弱虫ペダル 62」(渡辺航 著/秋田書店)
「MOUNTAINBIKE ACTION 34-8」
「サイクルトレーナー完全活用術」(柘出版社)
「LOOP Magazine Vol.27」(三栄書房)
「ロードバイクライティングのコツ 60」(別府匠 著/メイツ出版)
「MOUNTAINBIKE ACTION 34-9」
「自転車日和 52/ちょっと気になる折りたたみ自転車」(辰巳出版)
「ロードバイクのパワートレーニング」(柘出版社)
「ロードバイクトレーニング/最強ホビーレーサー高岡亮寛が教える」(日東書院本社)
「MOUNTAINBIKE ACTION 34-10」
「MTB 日和 Vol.39」(辰巳出版)
「音で知らせる自転車反射板自転車事故・過失軽減」(増田志津恵 著/発明開発連合)
「弱虫ペダル 63」(渡辺航 著/秋田書店)
「E-BIKE オールカタログ最新スポーツEバイクのすべて 2019/電動アシスト付きスポーツ自転車」(柘出版社)
「かわうその自転車屋さん 7」(こやまけいこ 著/芳文堂)
「じてんしゃと泊まる宿/サイクリストにやさしい宿&コースガイド 2019~2020」(ガイドワークス)
「MOUNTAINBIKE ACTION 34-11」
「ワンランクアップのロードバイク術」(柘出版社)
「只今、自転車にて日本逃亡中」(とみたたかひろ 著/文芸社)
「なないろペダル/世界の果てまで自転車で」(青木麻耶 著/出版舎ジグ)

♪BCC休館日のお知らせ♪

★月曜日休館〔祝・祭日の場合は翌平日〕

10月7日・15日(火)・21日・28日

11月5日(火)・11日・18日・25日

12月2日・9日・16日・23日

❖年末年始につきましては、11月中旬にHPにてお知らせします♪

「BCC友の会」会員募集中♪

自転車に関する書籍など、約11,500冊以上を所蔵しています。会員登録をしていただいた方に限り、図書の間覧をすることができます。会員各位におかれましては、ご友人様などご紹介頂けたら幸いです。

「BCC友の会1日利用システム」♪

現在、皆様にもっと当センターを活用して頂きたく【1日ご利用システム】を設置しております。是非、ご利用してみたいかがでしょうか!?ご利用の詳細は、BCCHP又はBCCまでお問い合わせください。

～友の会会員証有効期限のお知らせ～

『会員証』更新につきましては、入会日から2年間、ご来館のない場合は、無効となりますのでご注意ください。また、再入会の場合は、新たに入会手続きが必要となります。有効期限などご不明の場合は、BCCカウンタースタッフまで、お問い合わせください。

自転車文化センターにご来館の際は、必ず会員証をカウンターまでご提示ください♪



科学技術館入館チケット(招待券)プレゼント!

科学技術館(千代田区北の丸公園)「2F自転車広場」には、当センター所蔵の歴史的自転車などの常設展示を引き続き行っております。ぜひお立ち寄りください。

♡友の会会員の方に科学技術館入館チケット(招待券)を先着10名様(お一人様2枚まで)に差し上げます。

自転車文化センター(目黒)にご来館のうえ、インフォメーションカウンターまでお申し出ください。

“2019 Brisbane to Gold Coast Cycle Challenge “ 100Km コースに参加して参りました！

BCC 松島 寿美子

去る9月15日(日)、今年で15回目となる“2019 Brisbane to Gold Coast Cycle Challenge “以下略称(B2GC) オーストラリアのブリスベンをスタートし、ゴールドコーストをゴールとするレース(100 kmコース)に、サイクリング経験ほぼゼロの私が参加して参りましたので、今回は、その体験記を書かせていただきます。

そもそも、この大会に参加するきっかけとなったのは、自転車文化センターの母体である一般財団法人日本自転車普及協会が毎年5月に開催しているロードレース大会「Tour of Japan」以下略称(TOJ)の関係からのものでした。B2GC を開催している関係者から、同大会にももっと日本人参加者の受入れを増やし、海外サイクリストとの交流促進を行いたい。ひいては、日本で最大の自転車ロードレースを開催している事務局の人に実際のB2GC レースの現場を見てもらい、意見を聞きたいというお話があり、モニターを兼ね私ともう一人(TOJ 担当所属)の2名で参加した次第です。

今回のB2GC に向け、国内3社の旅行代理店がツアーを組んでいました。各社とも参加者へのアピールポイントがあり、中でもカンタス航空を利用するツアーにあった自転車を輸送したい人向けに輸送箱を無料でサービスする。というものは、利用したい人にとってはとても有難いサービスで、航空会社の意気込みが感じられました。

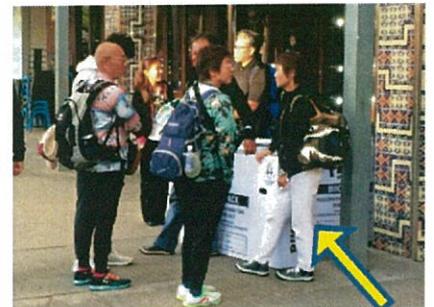
9月14日(土) レース前日、参加受付時の様子



Mantra Terrace Hotel Brisbane



受付時に渡された参加者用の封筒中身一式



カンタス航空からのサービスの輸送箱で参加した方たち

レース当日は、朝4時15分に宿泊ホテルロビーに集合し、5時から設営に入っているスタート現場を視察しました。写真にあるように、外はまだ真っ暗で寒かったですが、空が少しずつ白んでくる頃には、ライダーたちで埋め尽くされていました。今回、スタート地点となった「エレナー・ショネル橋」は、普段はクィーンズランド大学へのバス専用レーンとなっており、通行はできないそうです。スタート時間が、ライダーの走行速度により3つに区切られており、一番速い時速30 km以上は、赤いゼッケンで5時30分スタート。次が時速25 km~30 kmでオレンジのゼッケン。こちらは、5時45分にスタート。そして一番ゆっくりな時速25 km未満は青のゼッケンで、6時10分のスタート。女性のグループはこちらのカテゴリーに統合されていました。

9月15日(日) レース当日



スタート地点設営風景 AM5:00
(エレナー・ショネル橋)



スタート地点(クィーンズランド大学前)からフィニッシュ地点迄の荷物運搬サービス受付の様子
(利用料金 AU\$5 以上の寄付※任意)



スタートは、ライダーの走行速度によって分かれています

時間通りにスタートをし、私たちのグループは、私、同僚(男性)と今回お声かけくださった関係者の方(男性)とカンタス航空の方(女性)の計4名で走りました。私以外の面々は、経験者でありましたので、とにかく迷惑を掛けないように走らねば。。。という気持ちで一杯でした。

ゴールまでの100 kmの間にレストストップ(休憩&トイレ&補給食等)が40 km、80 km地点に2箇所設けられていて、案の定私の走りが遅いため、いずれのレストストップでも人はまばらで、80 km地点のレストストップでは、片付けが始まりそうな勢いで焦りました…



40km 地点でのレストストップ。こちらでは、水のほか補給食(スニッカーズ)とバナナが配られていました。



80 km地点でのレストストップ。こちらでは、オーツが入ったパンや電解質パウダー、バナナがありました。既に片付けが始まっている感じ…焦

コースは、要所要所に地元のボランティアの方たちがおりましたのと、最後まで一緒に伴走してくださったT氏(今回の大会にお声かけをくださった関係者)のお蔭で、走りきることができました。そんな必死な状況でしたので、走行中に見たオーストラリア東部の牛がいたのどかな風景、一輪車で最後まで走っていた紳士、親子でタンデム走行の人、「がんばれー!」と見ず知らずの東洋人に庭先から手を振ってくれた方たち、ゴールドコーストが近づいてきたと感じた美しい河口の景色等々、カメラに収める余裕などみじんもなく、幾度となくツリそうになった足をなだめながら、サグワゴンのお世話にもならず、12時30分、なんとかゴールすることができたのでした。そして今回、一つだけ自分を褒めてあげたいことがあります。それは、走行中、つらい上り坂で一度も自転車から降りることなく走り続けたことです。このことは、これからの私の人生にきっと役に立つ経験になったのではないかな?と思ったのでした。

冒頭でもお話しましたが、サイクリング経験ほぼ0でも、100 km走ることができましたので、走ることに躊躇されている方がいらっしゃいましたら、“大丈夫です!(^^)!”是非、チャレンジしてみてください。特にこのB2GCは、来年も開催されますので、時間とお金とタイミングが合いましたら、参加されてみてください!オーストラリアののどかな風景から、この突き抜けるような青空を見て気持ちよく体感してきてください!♪



無事フィニッシュ★



と、これで100 kmを走った感想は終わらせていただきます。引き続き、番外編として、ブリスベン市内を車、徒歩で散歩して見てきたオーストラリアの生の自転車事情の感想も記載いたしましたので、ご一読いただけますと幸いです。

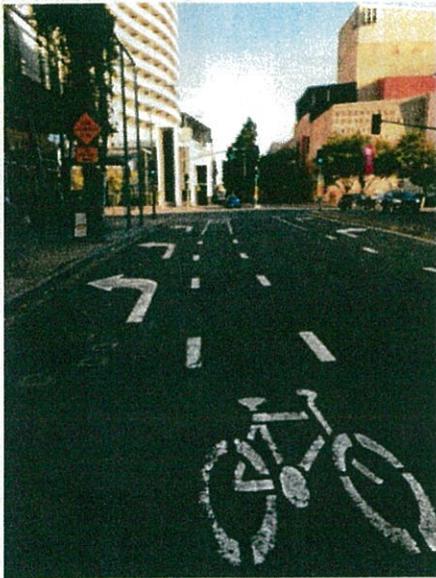
自転車文化センターは、競輪の補助を受けて事業を行っております。

【オーストラリア研修記番外編】

ブリスベン市内を車、徒歩で散策して感心したことは、広大な国土が大きく関係していると思いますが、その道の広さ故に自動車のレーンと自転車のレーンがきちんと区分けされており、両者にとって安全にかつストレスが少なく走行できるように整備されていることでした。また、公共施設等での自転車に対する受け入れ方が半端なく、自転車が市民と共存しているのだということも強く感じさせられました。ただ、宿泊ホテル周辺のブリスベン市内でのシェアバイク（Eバイクタイプ）の方は、充電切れが要因なのか？道の途中で乗り捨てされているものを多く見かけました。そして、乗り捨てられたものは、その会社の社員が夜に回収して回る。という事実にも驚いた次第です。日本人の感覚からすると、こういった場合、乗り捨てがされないようにするのはどうしたらよいか？といった策を考えると思うのですが、オーストラリアの人たちは、そうなったらその対処をする。といった考え方をします。と現地の方たちが言っていたのを聞き、表現が適切ではないかもしれませんが、大らかな国民性からなのか？と日本との違いをととも感じました。少し話がそれますが、スーパーマーケットのカートも同様に、路上や駐車場にしばしば放置されたりするそうなのですが、それもスーパーの方が回収して回るそうです。

オーストラリアでは、日本でいうところのママチャリ＝シティサイクルは、一切見かけませんでした。クロスバイクかロードバイクで、以下写真を掲載しましたが、公共施設の公園にも自由に使えるメンテナンス工具が設置されており、皆ある程度は自分でメンテナンスができる。ということなのだ。と分かりました。冒頭にも記しましたが、オーストラリアと日本（東京）では、あまりにも自転車の走る環境（道路事情）が違い過ぎるため、安易に比べることはできませんが、オーストラリアで実感した自転車に対する現地の人たちの感覚、意識をこの日本（東京）でも浸透させていけたら…と強く感じた旅になりました。

ーブリスベン市内 自転車走行環境と施設ー



Mantra Terrace Hotel Brisbane
(ゼッケン受け取りホテル) 前の道路

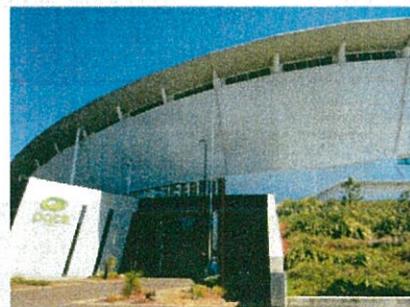
自動車の左折レーンと分離されていることで、自動車も自転車も安心して走行することが可能となっている。



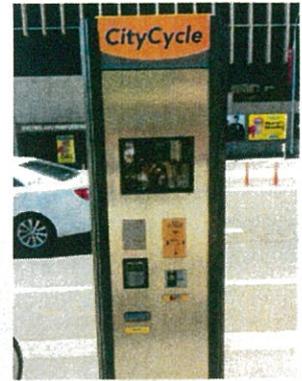
市内にある公共の自転車専用トラック。誰でも利用でき、使用料は無料。この日も、市内のクラブチームが、練習で利用していたところを目にすることができた。



こちらにも市内にある公共のスポーツ施設。敷地内にBMX用のトラックも完備されている。ドーム内にバンクがあり、自由に入ることができた。他にはフィットネスジムもあり、色々なプログラムがあった。



市内のレンタルサイクル (City Cycle)



シティサイクルステーションなら、最初に借りた
ところでもなくとも返却OKで、300~500m間隔
に置き場があり、30分毎に1度自転車を止める
と延長料金はかからず乗り続けられるシステムに
なっている。
17歳以上であれば、市民でなくても誰でも利用
することが可能。
利用料金：1日フリーパスAU\$2



こちらは、シェアバイクのEバイクタイプ。
(電動スクーター)Lime Electric Scooter
QRコードがハンドル部分にあり、スマホで
読み取り使用可能となる。専用アプリを起動
すると、スクーターがどこにあるのか地図上
に表示される。
電動なので、充電が無くなったりしたため
か？街中で乗り捨てられているバイクをあち
こちで目にした。夜にLimeのスタッフがス
クーターを回収し、充電するとのこと。



公共の公園内に設置されている自転車の工具
誰でもが無料で利用できる。

